

危機の三菱重工

長崎造船所元労働者 錦戸淑宏さんに聞く

経団連の軍拡要求を主導しているのは三菱重工です。そして三菱重工は軍事産業依存の「成長戦略」を立てているのです。

三菱重工の「防衛・宇宙ドメイン」は2016年6月に事業戦略説明会を開き、事業方針・戦略を示しました。

三菱重工の長崎造船所は1956年に世界一の年間進水量を記録しました。76年までに世界一を16回達成し、「世界の三菱・長崎」を誇りました。根幹の造船業が揺らいでいるいま、三菱重工は危険な道へ進むつもりです。

「北朝鮮」は商機

安倍晋三政権は財界と米国の意向に従い、軍事費の増大と武器輸出による経済の軍事化を進めています。

①政府が掲げる「統合機動防衛力」構想によって、新たな武器の開発と調達が加速される②政府の武器輸出三原則撤廃によって、武器の国際共同開発を軸に海外輸出が拡大する③政府の新宇宙計画と工程表の策定によって、国内の宇宙関連市場規模が今後10年間で累計5兆円に拡大する、というものです。

安倍政権の政策を、資本の言葉で言い換えただけです。

「死の商人」表舞台に立つ



三菱重工長崎造船所史料館に立つ、三菱の創業者、岩崎弥太郎の像。長崎市内

ものです。

こうして次期事業計画が始まる18年以降、事業は「飛躍のステージ」に突入すると、三菱重工の「防衛・宇宙ドメイン」は表明しました。17年までは「拡大ステップへの準備」の期間だといいます。経営危機を乗り越えようとする三菱重工が、「死の商人」として表舞台に立つ意思を示した

「SM3プロック2A」は海上自衛隊のイージス艦に搭載されているミサイル「SM3プロック1A」の改良型で、米国レイセオン社と三菱重工が共同開発してきたものです。ミサイル

垂直発射装置(VLS)はすでに長崎で製作されています。北朝鮮問題を利用して三菱重工は大きな商機ととらえています。

迎撃ミサイルは、相手側がミサイルを発射したことをいち早く探知しなければ役に立ちません。そのためには人工衛星で宇宙から常に相手の動向を監視しておくことが必要です。その人工衛星を打ち上げるロケットは三菱重工製です。

無人機は独壇場 三菱重工の名古屋航空宇宙システム製作所ではF15戦闘機やF35戦闘機などを生産しています。政府はF35戦闘機42機を導入する計画ですが、そのうち38機は小牧南工場(愛知県豊山町)で最終組み立てを行う予定です。

「無人機に関する構想検討」として6000万円を計上し、戦闘用無人機開発に本腰を入れていきます。無人航空機の技術については「三菱重工の独壇場」といわれています。05年の三菱重工の報告書は「無人航空機に対し、各種研究・開発を実施しその技術基盤を培ってきている」と記載しています。

三菱重工がめざす「防衛・宇宙」事業の拡大と、安倍政権の「戦争する体制づくり」は一体です。憲法9条の破壊へ突っ走る安倍政権と、それを軍事生産で裏打ちする経団連・三菱重工の暴走を許すのか。平和な日本の未来をかけたたたかい抜くのか。私たちは正念場を迎えています。

安倍政権は17年度予算で

(おわり)